

戦国時代、たった13歳で親元を離れ、キリスト教のために命を懸けて海を渡った少年たち。その使命は、身をもって日本の素晴らしさをヨーロッパに知らしめること、そしてキリスト教の母体である西洋文化を日本に持ち帰り伝えることでした。おのれの死にも勝る強い意志と勇気、愛をもって、異国の宗教、異国の音楽に取り組んだのでした。ルネサンスの花開くヨーロッパで4人が見聞きし、日本に持ち帰ったであろう音楽の数々を、笑いあり涙ありの物語仕立てでお聞かせいたします。

アントネッロ鹿児島公演



Anthonyello

語りと音楽でつづる 天正遣欧使節と音楽

主催：アントネッロ鹿児島公演実行委員会
後援：日本コダーイ協会・鹿児島市教育委員会・鹿児島市芸術文化協会・南日本放送
協賛：かごしまコダーイ芸術教育研究所

古楽アンサンブル<アントネッロ>



2019

3

31

Sunday

(開場 16:30) 開演 17:00~

【会場】カトリック谷山教会

鹿児島市東谷山2丁目 33-13 / TEL:099-268-2084

【入場料】一般前売：3,000円(当日3,500円)

学生前売：1,000円(当日1,200円)

【出演者】濱田芳通・西山まりえ・石川かおり

阿部雅子・中嶋克彦・濱元智行

鹿児島市在住の小学生

【チケット取り扱い】

カトリック谷山教会 / 十字屋クロス / 山形屋プレイガイド

松田ピアノ友社 / 生協コープ宇宿店・谷山店・南谷山店

【お問合せ】 後藤 朋子 TEL:090-5624-6411

Antho **古楽アンサンブル<アントネッロ>**

1994年の結成以来、アントネッロは<作品が生まれた時のスピリット>を大切に、躍動感、生命力が備わった、音楽の持つ根源的な魅力を明らかにする。これまでリリースされたCDは、いずれも「朝日新聞視聴室」、「レコード芸術」誌など各メディアから常に最先端の古楽グループとして高い評価を受ける。アントネッロの演奏は海外からも注目され、シンフォニア・レーベル(イタリア)、ビス・レーベル(スウェーデン)、エンキリアディス(スペイン)などからもCDをリリースし、いずれもフランス「ディアパソン」誌で5つ星を獲得するほか、フランス「レペルトワール」誌推薦盤、イタリア「MUSICA」誌最優秀推薦盤などに選ばれるなど、全ヨーロッパに渡って絶賛された。

—日本から発信される新しい古楽の潮流

—彼らの演奏法は今後流行<モード>となるだろう

仏「ディアパソン」誌

仏「レペルトワール」誌

クラシック音楽の既成概念の枠を超えて純粋に『音楽性』を求めるその企画、作品は音楽雑誌のみならず各メディアで数多く取り上げられ、クラシック音楽ファン以外からも注目と共感を集めている。

2013年よりバロック・オペラプロジェクト<オペラ・フレスカ>始動。2019年8月にはレオナルド・ダ・ヴィンチが関わったとされる幻の音楽劇「オルフェオ物語」を蘇演予定。未だ上演機会の少ないオペラ創世記の作品を中心に、精力的に取り組んでいる。

受賞歴

2005年度 ホテルオークラ音楽賞 受賞

2015年度 ミュージック・ペンクラブ・ジャパン音楽賞(室内楽・合唱部門) 受賞

2015年度 佐川吉男音楽賞 受賞

オフィシャル・ウェブサイト <https://www.anthonello.com/>

演奏曲

日向木挽唄〜ももやももや【作者不詳】

漆黒の南蛮履【作者不詳】

ラ・トリコテア【アロンソ】他

※演奏曲は変更となる場合がございます



濱田 芳通

リコーダー&コルネット 音楽監督

我が国初の私立音楽大学、東洋音楽大学(現東京音楽大学)の創立者を曾祖父に持ち、音楽一家の四代目として東京に生まれる。桐朋学園大学古楽器科卒業後、スイス政府給費留学生としてバーゼル・スコラ・カントールムに留学。コンチェルト・バラティエノ、アンサンブル<ラ・フェニーチェ>のコンサート及び録音に参加するなど、ヨーロッパ各地で活躍する。近年では、G.カッチーニ作曲「エウリディーチェ」本邦初演、2019年8月にはレオナルド・ダ・ヴィンチが関わったとされる「オルフェオ物語」蘇演予定等、オペラの指揮者としても活躍する一方、南蛮音楽の研究はアントネッロ結成以来20数年が経つ。その成果として芝居付き演奏会<エソポのハプラス>、朗読付き演奏会<天正遣欧少年使節の物語(同名CDリリース)>等を各地にて開催している。著書「歌の心を究むべし」(アルテスパブリッシング)。古楽アンサンブル<アントネッロ>代表。



石川 かおり

ヴィオラ・ダ・ガンバ

山梨大学教育学部在学中、故大橋敏成氏の指導のもとにヴィオラ・ダ・ガンバを始める。同大学卒業後、スイスのバーゼル・スコラ・カントールムに留学。エンリコ・ガッティ、ウィリアム・ドンゴワの各氏等と共演する等、通奏低音奏者及びソリストとして活躍中。CD「ユーモラス・トビー(ドバイアス・ヒューム作品集)」リリース。武蔵野音楽大学非常勤講師。



西山 まりえ

チェンバロ&バロック・ハーブ

東京音楽大学ピアノ科卒業。同大学研究科チェンバロ科修了。イタリアのミラノ市立音楽院、及びスイスのバーゼル・スコラ・カントールムに留学。オランダのユトレヒト音楽祭よりソロ・リサイタル招聘。多数のCD録音はどれも高い評価を受けている。第11回山梨古楽コンクール・チェンバロ部門第1位および栃木[蔵の街]音楽祭受賞。第23回同コンクール審査員。信州アーリー・ミュージック村芸術監督。武蔵野音楽大学チェンバロ科非常勤講師。オフィシャル・ウェブサイト <http://marienishiyama.com/>



阿部 雅子

ソプラノ



中嶋 克彦

テノール



濱元 智行

パーカッション

国立音楽大学後期博士課程声楽領域修了、博士号(音楽)取得。ヘンデル《メサイア》(外山雄三指揮)、ベートーヴェン《第九》(同指揮)、モンテヴェルディ《ポッペアの戴冠》、モーツァルト《イドメネオ》、ロータ《かしこいリス》(日本初演)、アントネッロ《エソポのハプラス》などに出演。イタリア初期バロックの音楽を中心に活動する傍ら、N響団友会との共演や、イタリアで開催されたAMI Festival(2012)、NYの国連イベント日本歌曲コンサート(2014)への出演など、幅広く活躍の場を広げている。2018年7月にOMFレーベルから「Ego flos campi わたしは野の花」(レコード芸術誌/準特選盤)をリリース。

長崎県大村市出身。福岡教育大学音楽科卒業。東京藝術大学大学院修士課程オペラ科修了。同大学院博士課程オペラ科修了、博士号取得。2012年より文化庁在外派遣研修員としてドイツに1年間留学。第50回東京藝術大学大学院オペラ定期モーツァルト『コシファン・トゥッテ』のフェルランド役でオペラデビュー後、新国立劇場R.シュトラウス『サロメ』、ピゼー『カルメン』、ブーランク『カルメル会修道女の対話』など出演多数。コンサートや宗教曲のソリストとしても定評があり、清々しい美声と確かな歌唱力で好評を博している。

大学時代にガムランと出会い、バリ島への渡航を重ね研鑽を積む。現在、「架空の南の島のお祭り音楽」をテーマに国内外で話題の「滞空時間」、バリ・ガムラン古典「SIDHA KARYA」、立岩潤三・大石竜輔とのパーカッション・トリオ「Barbe et Lunettes」、YOSHIMI (BOREDOMS, OOIOO) ヨシダダイキチ(シタール奏者)秋田ゴールドマン(SOIL & "PIMP" SESSIONS)とのユニット「SAICO BAB」などで活躍中。